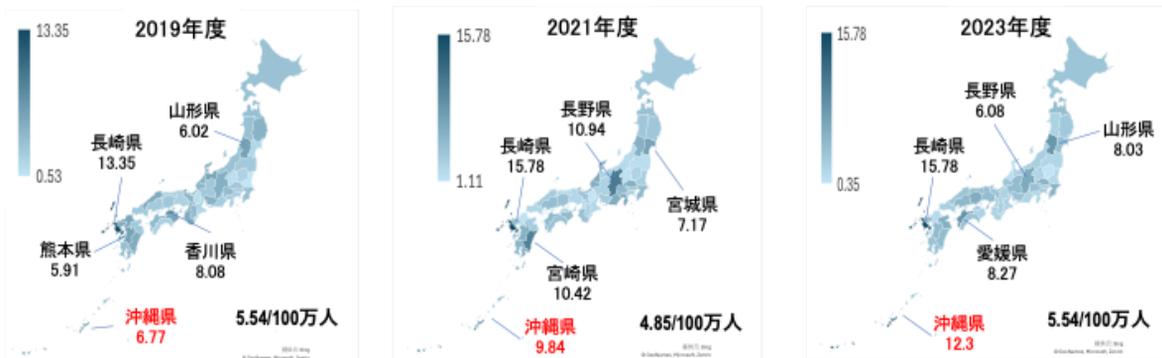


プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究

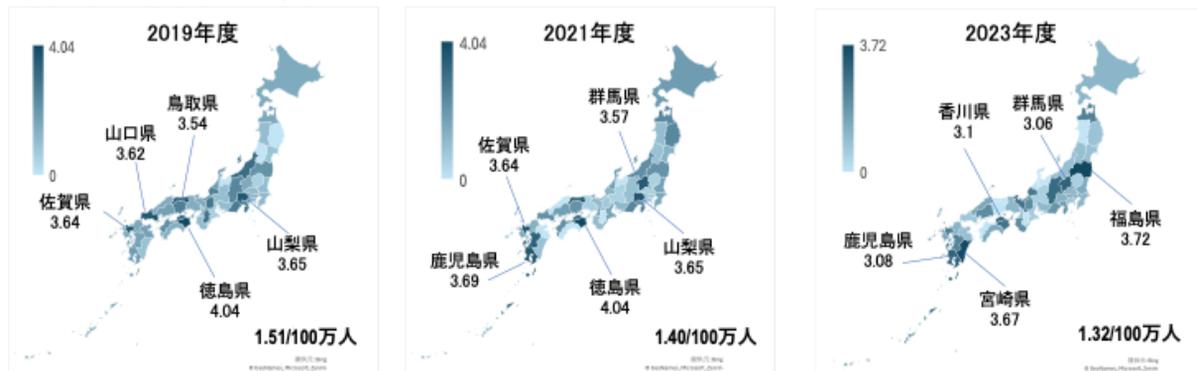
研究分担者: 東海大学医学部臨床薬理学 金谷泰宏

2019年度から2023年度におけるプリオン病症例の発生状況

難病法による医療受給者証による把握



感染症発生動向調査による把握



解 説

1. Seneff, S.らの報告(Cureus,2023)において、SARS-CoV-2のスパイク蛋白質がプリオン様蛋白質に特徴的な拡張アミノ酸配列を含むことから、神経変性疾患を引き起こす可能性を指摘し、公衆衛生面からの対策の必要性が示唆されている。
2. 感染症法律により、新規に発生したCJDを把握する感染症発生動向調査と累積する症例数を把握する医療費受給者証保持者数の推移を検証した。新規発生数については、ワクチン接種が開始された2020年以前から有意に症例数は減少傾向にあり、地域集積についても異常な集積は認められなかった。